



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月14日

上場会社名 オーウイル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3143 URL https://owill.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊達 一紀
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 青柳 あゆみ TEL 03 (5772) 4488
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	21,800	—	767	72.5	781	68.0	540	77.7
2021年3月期第3四半期	22,859	△12.0	445	△31.9	465	△32.7	304	△37.4

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 514百万円 (53.1%) 2021年3月期第3四半期 335百万円 (△27.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	171.74	—
2021年3月期第3四半期	96.63	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期の売上高については、当該基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	11,564	3,690	31.2	1,145.89
2021年3月期	10,093	3,318	32.2	1,033.16

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 3,609百万円 2021年3月期 3,254百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				45.00	45.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,500	—	710	32.1	720	30.6	480	38.2	152.40

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

「収益認識に関する会計基準」等を2022年3月期の期首から適用しており、上記の連結業績予想の売上高については当該基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 一社（社名）一、除外 1社（社名）0' WILL (ASIA) HOLDINGS PTE. LTD.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	3,150,000株	2021年3月期	3,150,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	304株	2021年3月期	304株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	3,149,696株	2021年3月期3Q	3,149,696株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展とともに感染者数が低位で推移し、持ち直しの動きがあったものの、変異株の感染再拡大など、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主力マーケットである食品飲料業界においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、人流や生活様式が大きく変化したことにより、経営環境は一変しております。また、消費者の健康志向や節約志向は高まっており、企業は新常态に対応した需要の創出や多様化する消費者ニーズへの対応が急務となっております。

このような状況下、当社グループは、「お客様に十分ご満足のゆく商品・サービスの提供」を品質方針として、安心かつ安全な商品を提供することを第一に品質管理体制の強化を図り、お客様のニーズに合わせた安定的な供給の継続及びサービスの向上に努めてまいりました。既存事業の深耕ならびに環境ビジネス関連の大型シーリングファンの成約件数が増加したことにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は21,800,326千円（前年同期は22,859,976千円）となりました。また、利益面においては、物流経費、広告宣伝費および貸倒引当金繰入額が増加したものの、主力カテゴリーの食品副原料や農産物加工品、大型シーリングファンの売上総利益が増加したことにより、営業利益は767,795千円（前年同期比72.5%増）、経常利益は781,972千円（前年同期比68.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は540,930千円（前年同期比77.7%増）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

<卸売事業>

飲料市場においては、飲料メーカー各社、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、販売チャネル戦略の見直しを迫られていることに加えて、原材料価格や物流費の高騰により、仕入価格が上昇していることから、厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当社グループは取引先の多様なニーズに対応すべく、国内外から安全で安心な原材料・資材を確保し、安定供給体制の維持に努め、既存取引先へのサービス向上と新規商材の開発・販促に注力してまいりました。主力カテゴリーであるビタミンCなどの食品副原料、茶類や果汁などの農産物加工品の販売数量が前年同期に比べ大幅に回復いたしました。また、大型シーリングファンの需要は引き続き高く、好調に推移したことから、卸売事業の売上高は21,742,984千円（前年同期は22,857,751千円）となりました。

<製造販売事業>

美味しさと素材にこだわった高品質で体にやさしいアイスクリームの開発に注力し、製造技術の向上、品質管理の強化に努め、取引先のニーズに合った商品を提供してまいりました。新規顧客先からの受注に加えて、主要顧客先からの注文が前年同期の減少から回復したことにより、業務用バルクアイスやPB商品の受注が増加いたしました。以上の結果、製造販売事業の売上高は458,543千円（前年同期は369,417千円）となりました。

(注) セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,541,153千円増加し、10,122,432千円となりました。主な要因は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加によるものであります。また、当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ70,750千円減少し、1,441,675千円となりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて1,470,403千円増加し、11,564,108千円となりました。

② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,374,897千円増加し、6,568,374千円となりました。主な要因は、買掛金及び未払金の増加によるものであります。また、当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ277,212千円減少し、1,304,935千円となりました。主な要因は、長期借入金の減少によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ1,097,685千円増加し、7,873,310千円となりました。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ372,717千円増加し、3,690,798千円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2021年11月8日に発表いたしました数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,910,313	2,650,752
受取手形及び売掛金	4,039,959	4,986,056
商品及び製品	1,435,627	1,502,256
未着商品	793,496	475,561
原材料及び貯蔵品	27,770	59,873
未収入金	102,690	104,204
その他	276,022	395,647
貸倒引当金	△4,600	△51,920
流動資産合計	8,581,279	10,122,432
固定資産		
有形固定資産	400,305	387,915
無形固定資産	3,572	4,130
投資その他の資産	1,108,548	1,049,629
固定資産合計	1,512,426	1,441,675
資産合計	10,093,705	11,564,108
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,815,883	5,169,811
1年内返済予定の長期借入金	792,405	694,514
未払金	159,238	226,044
未払法人税等	82,962	129,877
賞与引当金	43,712	23,400
その他	299,275	324,727
流動負債合計	5,193,476	6,568,374
固定負債		
長期借入金	1,498,213	1,232,312
資産除去債務	1,723	944
その他	82,211	71,679
固定負債合計	1,582,148	1,304,935
負債合計	6,775,625	7,873,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	363,387	363,387
資本剰余金	292,475	292,475
利益剰余金	2,278,850	2,678,044
自己株式	△259	△259
株主資本合計	2,934,453	3,333,648
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	281,087	240,373
繰延ヘッジ損益	7,726	1,358
為替換算調整勘定	30,882	33,817
その他の包括利益累計額合計	319,696	275,549
非支配株主持分	63,930	81,600
純資産合計	3,318,080	3,690,798
負債純資産合計	10,093,705	11,564,108

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	22,859,976	21,800,326
売上原価	20,790,521	19,399,940
売上総利益	2,069,455	2,400,385
販売費及び一般管理費	1,624,421	1,632,589
営業利益	445,033	767,795
営業外収益		
受取利息	134	617
受取配当金	6,711	6,827
受取手数料	4,745	4,745
受取補償金	1,662	3,914
補助金収入	31,441	7,696
その他	2,215	5,445
営業外収益合計	46,911	29,247
営業外費用		
支払利息	6,740	6,053
為替差損	18,732	8,898
支払補償費	806	—
その他	195	117
営業外費用合計	26,475	15,069
経常利益	465,469	781,972
特別利益		
固定資産売却益	57	3,096
投資有価証券売却益	4,071	—
為替換算調整勘定取崩益	—	13,226
特別利益合計	4,129	16,322
税金等調整前四半期純利益	469,598	798,295
法人税、住民税及び事業税	169,338	223,834
法人税等調整額	△12,491	19,407
法人税等合計	156,847	243,241
四半期純利益	312,751	555,053
非支配株主に帰属する四半期純利益	8,387	14,122
親会社株主に帰属する四半期純利益	304,363	540,930

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	312,751	555,053
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40,795	△40,713
繰延ヘッジ損益	△2,825	△6,368
為替換算調整勘定	△14,763	6,481
その他の包括利益合計	23,205	△40,599
四半期包括利益	335,956	514,453
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	330,441	496,784
非支配株主に係る四半期包括利益	5,515	17,669

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、顧客との約束が財又はサービスを他の当事者によって提供されるように手配する履行義務である場合には、代理人として純額で収益を認識しております。また、有償支給取引について、従来は、有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。

この結果、従前の会計処理と比較して、当第3四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は2,018,234千円減少し、「原材料及び貯蔵品」及び流動負債の「その他」がそれぞれ37,067千円増加しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売事業	製造販売 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	22,735,649	124,327	22,859,976	—	22,859,976
セグメント間の内部 売上高又は振替高	122,101	245,090	367,192	△367,192	—
計	22,857,751	369,417	23,227,169	△367,192	22,859,976
セグメント利益又は 損失(△)	509,724	△65,026	444,698	335	445,033

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額335千円は、セグメント間取引消去335千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売事業	製造販売 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,583,468	216,857	21,800,326	—	21,800,326
セグメント間の内部 売上高又は振替高	159,516	241,686	401,202	△401,202	—
計	21,742,984	458,543	22,201,528	△401,202	21,800,326
セグメント利益又は 損失(△)	776,280	△12,436	763,843	3,951	767,795

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額3,951千円は、セグメント間取引消去3,951千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益または損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「卸売事業」の売上高は2,018,234千円減少しております。